

九州地域戦略会議における農産物輸出に関するこれまでの取組み

1 『アジアと一体となって発展する九州』の実現に向けて（戦略会議PT）

PT①：企業の国際競争力強化のための方策（農産物輸出WG）（幹事：九商連）

〈検討内容〉

○ロット確保・販路拡大について

→物流コストを削減するためにはロットを確保することが重要だが、その前提として、安定した販路を開拓することが必要。

○九州一体となった取組み・九州ブランドについて

→既にブランドとして確立している商品が多数存在し、九州内で競合している商品がある中、競争と協調の下、九州一体となって取り組むべき方策について、具体的に検討することが必要。

〈今後の検討にあたっての視点〉

今後この課題を検討するにあたっては、議論の対象範囲について事前の整理が重要。

- ・対象品目：農産物のみか、水産物を含むか。また、生鮮品か加工品か
- ・検討内容をどこまでとするか：農業振興、ブランド振興、販路拡大等
- ・既存組織での取組み・施策との整合をどうするか（九州農業成長産業化連携協議会、九経連・国際ビジネスセンター等）

2 第9回夏季セミナー・第2分科会

「企業の国際競争力強化のための方策 ～農林水産物の輸出促進～」

（座長：中村学園大学・中村学園大学短期大学部学長、九州大学名誉教授 甲斐 諭氏）

〈分科会での主な意見〉

- ・九州一体での商談会やデザインの統一化、安全性の問題など、まずは緩やかな連携からスタートしてはどうか。
- ・九州ブランドの確立に取り組むにあたり、これまで各県が地道に取り組んで確立してきたものを壊すのではなく、野菜など、南から北へリレーでつないで輸出することも考えられる。
- ・九州はアジアに近いと言いながら、実は物流の面で考えると、香港などとの直行便も少なく、近くはないということを意識すべき。

〈座長取りまとめ〉

九州での農産物輸出拡大に向けて、次の5つの取組みを提案する。

- ①従前の県ごとの輸出展開方式から、商談・物流コストの削減等を一緒に取り組むという緩やかな協調方式の輸出に転換する。
- ②各県のプロモーションを一過性のものにせず、連続性を持たせ実施する。
- ③各県の特別栽培認証制度を緩やかにまとめ、九州特別栽培認証制度を創設する。
- ④従前の自治体予算依存型輸出促進方式から、企業の利益追求型輸出促進方式に徐々に移行する。
- ⑤九州の農産物輸出を担える民間企業を育成する。

以上